

文化庁アートプラットフォーム事業 文化庁現代アートワークショップ  
Art Platform Japan Bunka-cho Contemporary Art Workshop

セッション 3

ポストパンデミック時代における展覧会づくり・手法の可能性

モデレーター 神谷幸江 (キュレーター、美術評論)

登壇者 足立アン (Collaborative Cataloging Japan) 田坂博子 (東京都写真美術館)

エリカ・ペーパーニク・シミズ (ニューヨーク近代美術館) 橋本梓 (国立国際美術館)

Session 3

The Possibilities in Exhibition Making/Methods in the Pandemic Era

Moderator Kamiya Yukie (Curator, Art Critic)

Speaker Ann Adachi-Tasch (Collaborative Cataloging Japan) Tasaka Hiroko (Tokyo Photographic Art Museum)

Erica Papernik-Shimizu (The Museum of Modern Art) Hashimoto Azusa (National Museum of Art, Osaka)

2022年1月29日 9:30-12:00

January 29, 2022, 9:30am-noon (JTS)

ART  
PLATFORM  
JAPAN

文化庁  
Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

足立アン (コラボラティブ・カタロギング・ジャパン ディレクター)

日本の歴史的・実験的な映像作品の保存とアーカイブを支援する非営利団体、コラボラティブ・カタロギング・ジャパン、エグゼクティブ・ディレクター。ニューヨーク近代美術館在職中は、C-MAP (Contemporary and Modern Art Perspectives) と呼ばれる同館のグローバルな研究イニシアチブ事業を運営し、デジタルプラットフォーム post (post.at.moma.org) の立ち上げに貢献。2009年には、ビデオアートのアーカイブとディストリビューションを行うエレクトロニック・アーツ・インターミックス (EAI) で、日本の実験映像作品の巡回上映と出版「Vital Signals」を企画し、ディストリビューション・コーディネーターを務めた。また、東京国立近代美術館やテート・モダン (ロンドン)、慶応義塾大学アート・センター (東京)、アメリカ美術公文書館 (ワシントン D.C.) などにおいて、日本のメディア・アーカイブに関する講演や執筆を行っている。

エリカ・ペーパーニク・シミズ (ニューヨーク近代美術館 メディア&パフォーマンス部門 アソシエート・キュレーター)

MoMA PS1 (2005-2007年) を経て、ニューヨーク近代美術館勤務。2006年に設立されたメディア&パフォーマンス部門の創設メンバーの一人として、収集プログラムの確立に重要な役割を果たす。キュレーションの観点から、タイムベースト・メディア作品の管理や保存、展示のためのベストプラクティスデザインを専門とする。巡回展「Carolee Schneemann: Kinetic Painting」(2017-18、キュレーター: Sabine Breitwieser) において MoMA PS1 での展覧会を企画、2015年には Stuart Comer との共同企画により「Tony Oursler: Imponderable」展 (MoMA) を開催。

田坂 博子 (東京都写真美術館学芸員)

主な企画に「映像をめぐる冒険 vol.5 記録は可能か。」(2012-13)、「高谷史郎 明るい部屋」(2013-14)、「アピチャップン・ウィーラセタクン 亡霊たち」(2016-17)、「エクスパンデッド・シネマ再考」展 (2017)、「エキソニモ UN-DEAD-LINK」展 (2020)、「[第2-14回] 恵比寿映像祭」(2009-22) など。現在、2022年2月開催予定の第14回恵比寿映像祭を準備中。

### 橋本梓（国立国際美術館主任研究員）

2008年より同館に勤務。グローバルな美術史とローカルなアートの摩擦がもたらす創造性に関心を持ち、さまざまなキュレーションの実践を行う。主な展覧会に2011年「風穴 もうひとつのコンセプチュアリズム、アジアから」、2015年「他人の時間」、2016年「THE PLAY since 1967」、2018年「トラベラー：まだ見ぬ地を踏むために」、2021年「Viva Video! 久保田成子展」ほか。

### モデレーター：

#### 神谷幸江（キュレーター・美術評論）

ジャパン・ソサエティー（ニューヨーク）ギャラリー・ディレクター、広島市現代美術館学芸担当課長、ニューミュージアム（ニューヨーク）アソシエイト・キュレーターを歴任。第12回上海ビエンナーレ（2018-19）共同キュレーター。国内外でアジア地域、異分野を横断する展覧会を企画。「ふぞろいなハーモニー：アジアという想像力についての批評的考察」（アジア4都市巡回2015-2018）、「Re:Quest—1970年代以降の日本現代美術」（ソウル大学美術館、2013）などを共同キュレーション。2011年西洋美術振興財団学術賞を受賞。AICA（美術評論家連盟）会員。共著に『Hiroshi Sugimoto: Gates of Paradise』（Skira/Rizzoli、2017）, 『California-Pacific Triennial』（2013）, 『Creamier—Contemporary Art in Culture』（Phaidon、2010）などがある。